

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：千葉大学工学部総合工学科デザインコース

学年：四年

留学先大学：TH Köln KISD

現在の学期：Winter term

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	Photo AG (16:00-18:00)
火	Fragrance (15:00-18:00)
水	Desktop Video for International Students WS25/26 (13:00-15:00)
木	Fragrance (15:00-18:00)
金	OFF
土・日/ その他	Walking the (Digital) City Sensory Experiments in Urban Perception and Media Practices (短期集中プロジェクト) Mnemo Digital Mind Palaces for Mental Health (MXL Research Project) (短期集中プロジェクト) Cologne Resources 2025 短期集中プロジェクト) KISDEssential 2025 SoSE 25 短期集中プロジェクト)

履修科目や近況について

ドイツに到着して1ヶ月が経ちましたのでここに報告いたします。

TH Cologne はドイツ・ケルンに位置し、ケルンは eau de Cologne (オーデコロン；香水) の由来になった香水発祥の地でもあります。壮大で厳格なケルン大聖堂があるこの街で1ヶ月を過ごしてみた近況ですが、

まずは、上記の履修科目について。私が KISD を留学先大学に選んだのは、12 分野の異なるデザイン分野から幅広く千葉大学の授業では触れてこなかったようなことを、授業の中で学べる環境が備わっているところだと知っていたからです。また、千葉大学では1学年ごとにそれぞれの履修があり階段式に上がっていくので先輩と一緒にの授業になることは少ないですが、KISD は全生徒が履修したいと思う授業を選択するため異なる学年・セメスターの学生が一つの同じ授業を選択するため縦の繋がりと異なるバックグラウンドの仲間たちと共にデザインを学べる環境にあります。

1 各科目の内容 / 2 履修理由

今のところ履修が決定している科目とその内容、履修理由についてです。実のところ、今後生徒たちが主体に授業を作る SIP という特殊な授業が任意で履修が可

能になり、その一つに参加しようかと考えているのですが、それはまだ始まっておらず
ちょうど今日内容の説明を受けたばかりなので、実際に履修をすることが決定したらま
た別の報告書にて説明させていただきます。

KISD Essential 2025 SoSE25

- 1 KISD で自由なデザイン活動ができるように機材の使い方や 部屋の紹介、大学の仕組
みなどデザインを学ぶ上で必要な 知識を新入生が教わる授業。
- 2 必修。いくつかのグループごとに分かれて取り組む。

Cologne Resources 2025

- 1 2025 年 10 月 6 日～ 10 日 KISD(ケルン・リソース) 入門週は、2025 年 10 月 6 日午前
10 時から始まり、 合計 5 日間、ケルン・リソースの会場で開催される。
- 2 必修。グループごとに教授のもとでプロジェクトに取り組む。

Photo AG (16:00-18:00)

- 1 KISD のイベントの写真記録を担当できる授業。 イベント撮影に加え、ワーキンググ
ループは広報活動のための画像も作成する。 必要なスキルは、写真撮影、画像レビュ
ー、共同ポストプロダクションを通じて習得できる。
- 2 カメラが好きで、NIKON のカメラを日本から持ってきており、プロフェッショナルな
仕事を通して カメラの扱い方や画像編集の仕方など基礎から学びたかったから。

Fragrance (15:00-18:00)

- 1 中期プロジェクト。新しい香りを考案し、デザインし、そして伝え方を学ぶ。 消費者
文化の観点から、学際的なデザインを探究するプロダクトデザインの授業。ペアで行
う。
- 2 香水の発祥の地であるケルンにて香水のプロダクトデザインから市場への広告までを
一貫してデザインし学べる授業であるため。

Desktop Video for International Students WS25/26 (13:00-15:00)

- 1 デジタル ビデオを制作するための Adobe Premiere と After Effects での作業テクニッ
クを学習できる。この講義では、デジタル ビデオを制作するための Adobe Premiere と
After Effects での作業テクニックを学習する。
- 2 大学院からはコミュニケーションデザイン研究室に所属される予定なので動画作成の
基礎を学びたいと考えたから。

Walking the (Digital) City Sensory Experiments in Urban Perception and Media Practices (短期集中プロジェクト)

1 2 週間の短期プロジェクト。 デジタルメディアを通じて歩くこと、聴くこと、そして感じることを通して都市を探索する。

2 実験的かつパフォーマティブな手法を用い、学生が開かれた 感覚と遊び心と好奇心を持ち都市を探索できるとあったため。

Mnemo

Digital Mind Palaces for Mental Health (MXL Research Project) (短期集中プロジェクト)

1 「マインドパレス」と呼ばれる記憶術をもとにデジタルの 可能性をデザインによって開拓する授業。

2 うつ病患者に対する新たなアプローチ法として注目される マインドパレスを活用し、実社会に貢献できる可能性のある 授業だから。

次に生活面について報告させていただきます。

生活面について

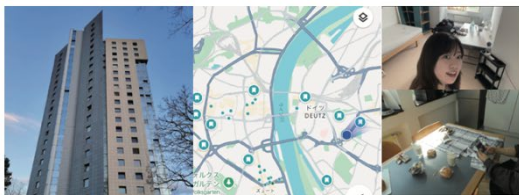
私は渡航前に予約していた学生寮の内見を経て、9 月 10 日からその寮に住み始めました。 ドイツでは住宅不足が深刻で、特にケルン市内は物価上昇の影響もあり家賃が高騰しています。そのため家探しは非常に困難でした。私は渡航 7 ヶ月前の 2 月から、ケルンで半年間留学していた 先輩の協力を得ながら、KSTW(ケルン学生支援機構)の寮への申請を継続的に行っていましたが、渡航前までにオファーは届かず、連絡が来たのはドイツで内見を終えた当日の夜(9 月 10 日)でした。

(この正式なオファーが届いた寮については、後ほど詳しく述べます。)当初予約していた内見は、実際にその寮に住んでいるインド人の学生が一時帰国のため、2 ヶ月間だけ部屋を又貸しできる相手を探しているというものでした。私は WhatsApp 上の家探しグループで自己紹介を投稿し、空き部屋を探している旨を伝えたところ、いくつかの返信の中からこの提案を受けました。ドイツでは個人間の賃貸に関する詐欺が多いことから、実際に現地で内見を行い、相手と直接会ってから判断することにしました。内見の結果、その部屋は KSTW が所有する正規の学生寮であり、相手も信頼できる人物だと感じたため契約を進めました。家賃は 1 ヶ月あたり 347 ユーロで、結果的に問題なく住むことができました。この寮はライン川の東側、比較的治安の良い地域である Deutz(ドイツ)に位置しています。ただし、このエリアにはバスが通っておらず、最寄り駅から徒歩で 10 分ほどかかるため、最初のうちは夜道を歩くのが少し怖く感じました。しかし、8 階の広い部屋でベッドが 2 つあり、同居人 3 人はいずれも同世代のドイツ人でした。

ツ人女性だったこともあり、すぐに慣れて快適に過ごせるようになりました。
その後、9月10日に Deutz での生活を始めて間もなく、正式な KSTW の寮オファーが届きました。場所は Efferent という地域で、せっかくの機会なので街の雰囲気だけでもと思い見に行くことにしました。事前に内見希望のメールを送りましたが返信はなく、3 日以内に入居を決めなければならないとのことだったため、実際に現地を訪ねてみました。

現地で見た部屋は、カーテンがなく生活感の残る荒れた状態で、ナイフや錐、生活用品などが散乱していました。建物自体は 2 階建てでバルコニー付きと聞こえは良かったのですが、実際には簡単に酔っ払いなどが侵入できそうな造りで、恐怖を感じたため入居は見送りました。7 ヶ月待ったオファーではありましたが、最終的に断ることにしました。（後日、Efferent 自体はそこまで治安の悪い地域ではなく、同じ建物内でも他の部屋は比較的きれいであったと知りました。私が見た部屋の前入居者の管理状態が悪かっただけのようです。ただし、家賃は 200 ユーロと非常に安価でした。）

また、私はビザを日本で申請していたものの、最終段階であるパスポート提出までに時間が足りず、現地で取得手続きを進める必要がありました。その際に必要となる住民登録は Deutz の寮では行えなかったため、新たに住民登録可能な住居を探さなければなりませんでした。



↑ 2 ヶ月借りた寮。20 階建てで、TH Köln の Deutz キャンパスの目の前にあります。
部屋の中の様子と、共用のキッチンスペースの写真



↑ KSTW からの正式なオファー。
こんな感じでメールで突然きます。



↑ Efferen の家の中が悲惨だった
2006 の物件の外観と内観

2 軒目の家は、ケルンから特急列車(RE)で 1 時間ほど行った 先にある、Au(Sieg)という田舎の穏やかな町にあります。この家では建築プロジェクトが行われており、芸術家たちが共同で暮らしています。家賃は光熱費と食事代込みで 400 ユーロと非常に良心的です。入居者には、建築プロジェクトやイベントに積極的に参加することが求められています。

住人は私を含めて 6 人で、ちょうど私自身も 6 人家族ということもあり、家庭的で居心地の良い雰囲気を感じられる環境でした。通学には時間がかかるものの、休日にも新しい刺激や学びを得られる、とても魅力的な住まいです。住人は全員ドイツ人ですが、私と話すときはいつも英語でコミュニケーションを取ってくれる優しい人たちです。私自身も人と関わることが好きなので、この環境はとても快適で充実しています。休日には一緒に家の壁を作ったり、DIY をしたり、川や森に出かけてりんごを採ったりと、自

然と創作の両方を楽しめます。ケルンの都会的な雰囲気と、ドイツの田舎ならではのローカルな生活の両方を体験できる、最高の環境だと感じています。

建築プロジェクトを行う シェアフラット生活（寮の次の家）



↑小さな牧場があり、自給自足している



↑私の誕生日。盛大にお祝いしてくれた。



↑家には工房もあり、芸術家が住んでいる。キャンプファイヤーしたり、ライブ部屋でイベントをしたり。ドイツ人の生活を教えてもらっている。



↑とっても優しい同居人！



↑家の中の壁を作った



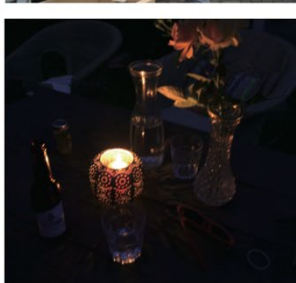
↑同居人にビーガンがいるので、ビーガンとベジタリアンについても学んでいる。



↑飼っているへび。



↑飼っている猫。二匹いて、一匹がたまたま私と同じ名前。



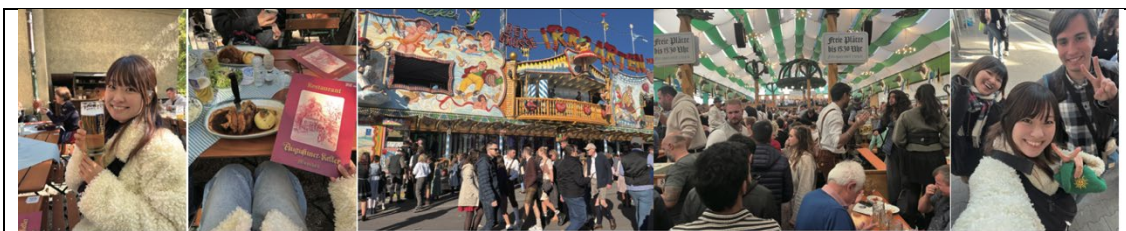
2軒目の家は、ケルンから特急列車（RE）で1時間ほど行った先にある、Au (Sieg) という田舎の穏やかな町にあります。この家では建築プロジェクトが行われており、芸術家たちが共同で暮らしています。家賃は光熱費と食事代込みで400ユーロと非常に良心的です。入居者には、建築プロジェクトやイベントに積極的に参加することが求められています。

住人は私を含めて6人で、ちょうど私自身も6人家族ということもあり、家庭的で居心地の良い雰囲気を感ぜられる環境でした。通学には時間がかかるものの、休日にも新しい刺激や学びを得られる、とても魅力的な住まいです。住人は全員ドイツ人ですが、私と話すときはいつも英語でコミュニケーションを取ってくれる優しい人たちです。私自身も人と関わるのが好きなので、この環境はとても快適で充実しています。休日には一緒に家の壁を作ったり、DIYをしたり、川や森に出かけてリンゴを採ったりと、自然と創作の両方を楽しめます。ケルンの都会的な雰囲気と、ドイツの田舎ならではのローカルな生活の両方を体験できる、最高の環境だと感じています。

そのほかの生活について(旅行・お出かけ)

10月3日 Oktober fest @München

お金がない中、オクトーバーフェストが10/6までだと10/1に知り、急いで計画を立てました。色々な人に話しかけた結果、FlixBusやICEなど色々な方法を教えてもらったけれど、お金がないのでドイチェランドチケットだけでいく片道15時間、往復30時間のMünchen旅を思いつきました。この中なかに力技な計画に乗ってくれた2人と共にMünchenのオクトーバーフェストに行きました。本場のオクトーバーフェストは圧巻でした。伝統的なコスチュームを着て、お昼にもかかわらず、多くの人が机の上に乗ってまで歌って踊っての大騒ぎで一体感がすごく、観ているだけでも楽しかったです。東京ドーム10個分の敷地内にはアトラクションもものすごい数が展開されており、歩いていてもビールにお菓子にアトラクションに、全てが新鮮で飽きることがありませんでした。お昼の13時ごろに到着しました。会場に入ったのは16時前で、17時には周りのテントが人数制限され始め入れなくなっていたので、その前にテントに入れてラッキーでした。



10月7日 Seiko Paris Exhibition @ヴァンドーム広場

ヴァンドーム広場にある SEIKO Paris で開催されたイベントに、デザイン部の方々が渡航されると伺い、日程を合わせて私も参加してきました。幸運なことに、Hotel Ritz Paris 内に特別に設けられた 隈研吾さんによる茶の間を、見学させていただくことができました。展示では、QR コードを用いて商品のリンクへ簡単にアクセスできるよう工夫されており、ブランドとテクノロジーを融合し、洗練されたおもてなしの接客が印象的で美しかったです。さらに、パリの一等地にある一泊 2,000 ユーロ以上のホテルの VIP エリアに入らせていただくという、貴重で忘れられない経験をさせていただきました。初めて訪れたパリでは、美術館巡りやセーヌ川クルーズにも参加しました。街のあまりの美しさに感動して一人涙していたところ、近くにいたおじいさんが優しく声をかけてくださり、最後にはお土産までいただきました。また、以前に 21_21 DESIGN SIGHT で展示説明員を務めた経験のある私にとって、実際に凱旋門を自分の目で見ることもできたのも、非常に感慨深い体験でした。まさに、デザインと文化、そして人の温かさに触れることができた充実の日でした。



ハイキングに行ったり、Bonnのハリボーのお店に行ったり、大学のパーティに参加したり。日々の写真です。



先日、10月中旬で誕生日を迎えたのですが、友達がお祝いしてくれたり、Au seigのお家のメンバーが突然サプライズでドイツの誕生日の時に歌う歌と合わせてケーキでお祝いをしてくれてとても嬉しかったです。しかも衝撃なことに5人中私を含めた3人が同じ誕生日なので、その日は私の歓迎と共に盛大にお祝いしてくださいました。